

広島平和記念式典派遣事業 報告書

平成 30 年 8 月 5 日～平成 30 年 8 月 6 日



三重県多気郡明和町

— 目次 —

1. 事業目的	1
2. 事業内容	1
3. 派遣人員	1
4. 参加報告	2
5. 派遣生徒レポート	7
6. 総括	13
非核平和の町宣言	14

1. 事業目的

戦争当時の記憶や平和の尊さを感じる心が薄れつつある中、次世代を担う若い世代への平和の伝承の重要性に鑑み、平和啓発事業の一環として、明和中学校生を被爆地広島へ派遣し、戦争の悲惨さ、平和の尊さに触れる機会を提供する。

2. 事業内容

平成 30 年 8 月 5 日（日）

- ・被爆体験伝承者の講話を受講
- ・原爆ドームの見学
- ・「原爆の子の像」見学及び千羽鶴の奉納
- ・広島平和記念資料館見学

平成 30 年 8 月 6 日（月）

- ・平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）参列
※自治体関係者席で参列
- ・世界遺産 厳島神社見学

3. 派遣人員

- ・明和中学校生徒 男子 2 名、女子 4 名
- ・明和中学校引率教諭 1 名
- ・明和町総務課職員 2 名



4. 参加報告

行程	被爆体験伝承講話の受講
日時	平成 30 年 8 月 5 日（日）13:45～15:00
場所	広島オフィスセンター（広島市南区東荒神 3-35）
この「被爆体験伝承講話」は、被爆者の高齢化が進み被爆体験をお話しされる方が少なくなっている中、被爆者からその体験や平和への思いを引き継いだ人々が語り継いでいくことを目的として広島市が主体となり、伝承者の養成や派遣を行っています。 私たちも、事前に申込みを行い、被爆体験伝承者の講話を受講しました。広島平和文化センター所属の池田さんが、爆心地から近い自宅で被爆された方のお話をされました。 ご自身の体験ではありませんが、原爆後遺症や当時の様子など、絵や図を交えたお話に、戦争の悲惨さを痛烈に感じることができました。また、講話の終わりに、平和記念公園にある被爆したアオギリの木のことを教えていただき、講話後に見学に行きました。	
	
	

行程	原爆ドームの見学
日時	平成 30 年 8 月 5 日（日）15:20～15:40
場所	平和記念公園内（広島市中区中島町）
核兵器廃絶と恒久平和を求める誓いのシンボルである原爆ドームは、元々は物産品の販売促進を図る拠点として、大正 4 年に広島県によって建造された、広島県物産陳列館という施設でした。 昭和 20 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分、原爆の投下により、建物は一瞬にして大破し、中にいた人々は全員死亡したと言われていますが、爆風が真上から吹き込んだことにより、壁の一部は倒壊を免れ、4 度の保存工事を経て現在に残っています。	
 	

行程	「原爆の子の像」見学及び千羽鶴の奉納
日時	平成 30 年 8 月 5 日（日） 15:40～16:00
場所	平和記念公園内（広島市中区中島町）
原爆の子の像後方に、千羽鶴を納めるためのブースが設置されており、明和中学校および町内 6 つの小学校の生徒・児童や町職員により作成された 6000 羽の千羽鶴を奉納しました。また、その後に原爆死没者慰霊碑に献花をしました。	
   	

行程	平和記念資料館見学
日時	平成 30 年 8 月 5 日（日） 16:10～17:15
場所	平和記念資料館（広島市中区中島町 1-2）
被爆当時の衣服や生活雑貨、被爆の惨状を示す資料等などが展示され、戦時下の広島の惨禍を感じることができました。本館が改修工事のため、東館のみの見学となりました。	
 	

行程	平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）参列
日時	平成 30 年 8 月 6 日（月）08:00～08:53
場所	平和記念公園内（広島市中区中島町）
広島市原爆死没者慰霊式並びに平和記念式へ参列しました。自治体関係者席で参列し原爆死没者に黙とうを捧げました。約 5 万人の参列者の中には、国際連合事務総長をはじめ、世界各地から首脳が参列されていました。広島市長の平和宣言が行われ、この被爆地広島から世界各国へ、恒久平和への願いが発信されました。	
	
	

5. 派遣生徒レポート

「平和とは」

明和中学校 三年E組 女子

平和とは、自然に笑顔になれること。平和とは、人も自分も幸せであること。平和とは、夢や希望をもてる未来があること。

昭和20年(1945年)8月6日午前8時15分、広島に原子爆弾が投下されてから73年。原爆ドーム、平和記念資料館、73年前の8月6日の出来事を語るものが沢山ありました。平和記念資料館に飾られていた8時15分で止まった時計、黒い雨がついた壁、ボロボロになった服。戦争は忘れてはダメです。被爆体験講話で池田さんという方が話していました。

「原爆が落とされたあの日を長く語ることはできない」
忘れたいのに忘れられない、そして忘れてはいけない。一番印象に残ったのはケロイドです。ケロイドとは後障害の1つです。原爆による放射線は、被爆直後の急性障害の発熱、吐き気、下痢などだけではなく長期にわたってさまざまな障害を引き起こしていました。1946年(昭和21年)初め頃から火傷が治ったあとが盛り上がるゲロイド症状が現れました。手術をしても治る事はなく、ケロイドにより結婚できない、人生が終わったと感じる人もいました。何の罪もない人を襲っていきました。被爆者の方々は後障害により働けない、結婚するなど差別を受けていたそうです。そんな差別が生まれるのはおかしいと思いました。

平和とは。広島平和記念式典の時にこども代表の2人が言っていた言葉です。自然に笑顔になれること、人も自分も幸せであること、夢や希望をもてる未来があること。何の罪もない人の人生を奪ったあの日をもう二度と繰り返すことのないように、そしてずっと平和が続き笑顔で暮らせる世の中が続く事を願うだけではなく行動にうつしていきたいと思いました。沢山の方々がつないできた平和への思いを私達がつないでいきたいと思いました。

「広島で学んだこと」

明和中学校 三年D組 女子

1945（昭和20）年8月6日、午前8時15分。広島は世界で初めて原子爆弾による被害を受けました。街はほとんどが一瞬で破壊され、多くの人々の命が奪われました。生き残った人も、家族や大切な人を奪った原子爆弾への怒り、憎しみ、悲しみ、苦しみ、そして放射線による後遺症や差別など、心と体に大きな痛手を受け、多くの被爆者が今も苦しんでいます。

被爆体験講話を伝承者の池田素美江さんに聞かせていただきました。

被爆された人々は、ケロイド、白血病、各種がん、体内被爆、遺伝障害、社会的偏見、差別などにより、現在もなおたくさんの方が苦しんでいるそうです。手術をしても治らない病気もあります。このようなことは、直接被爆された人々だけでなく、その子ども、孫にまで影響しているということを知りました。被爆二世、三世だからという理由で、結婚することが出来なかったり、差別されることもあるそうです。被爆者は望んで被爆したわけではありません。そのような差別がない世界をつくっていかねばならないと思いました。

一発の原子爆弾が、無差別に多くの命を奪い、生き残った人々の人生も変えました。このようなことは、日本国内だけでなく、世界中で二度と起きてはいけないと強く感じました。しかし、世界では戦争や紛争が今も絶えず起きています。

戦争は多くの人々の命を一瞬で奪ってしまうし、良いことは一つありません。世界中の人々が、笑顔で、少しでも安心して暮らせるような「平和」な世界になってほしいです。そのために、今まで世界中で戦争が起き、日本もそれに参加していたということ。広島と長崎に、原子爆弾が落とされたということ。今も世界中で戦争や紛争が起きているという現実を受け止めて、二度とこのようなことを繰り返してはいけない、ということを心に刻んでいきたいと思います。

「広島を訪れて」

明和中学校 三年A組 女子

私たちは8月5日6日に広島へ戦争について学びに行きました。小学校で戦争の勉強は何回かしていましたが、広島で見たり聞いたりし、「ピカドン」という一瞬の出来事の想像を絶する恐ろしさを知りました。

まず最初に被爆体験講話を被爆伝承者の池田さんにしてもらいました。原子爆弾が落とされた直後、川は水を求める被爆者の人でいっぱいになったこと。助けたくても助けることができない人がたくさんいたこと。そんな事が自分の目の前で起きていたらと考えるだけで体が震えそうになります。原爆の被害その時だけでなく、今もたくさんの人々が苦しんでいると知りました。池田さんは、「この当たり前の生活は貴重です。」とおっしゃっていました。原爆ドームは写真で何度か見たことがありましたが実際に見た時、町が一瞬にしてこのように破壊してしまったと知り本当に怖いと思いました。平和記念資料館では原爆のもたらした被害のことなどの資料を見ました。原爆が落ちる前と後の写真は本当に同じ町なのか分からないほどで原爆の悲惨さを思い知りました。針が止まってしまった時計や子どもたちの学生服など、見ることさえつらいようなものがたくさんありました。外にはアオギリという被爆した木がありました。でもアオギリは元気でその姿がたくさんの人を勇気づけていると知りました。原爆の子の像のモデルになった佐々木禎子さんは病気が治るよう祈って千羽鶴を折っていました。他の子どもたちも病気と闘っていたと思うと悲しくなります。平和記念式典にはたくさんの人がいました。みんな73年前のことを知り、平和について考えようとしているのだらうと思いました。

二日間で今まで知ったつもりになっていた原子爆弾のことやそれがもたらした被害を学びました。改めて戦争の悲惨さや今の生活がどれだけ幸せなのかが分かりました。今回感じたことをより多くの人に知ってもらい、少しずつでも戦争のないみんなが過ごせる世界になればと思います。

「広島平和記念式典に参加して」

明和中学校 三年A組 男子

僕は今回の広島平和記念式典派遣事業で初めて広島を訪れました。広島駅に到着し広島を初めて見て僕は都会だなと思いました。原爆ドームを見るまでは 73 年前ここに原爆が投下され焼け野原になっていたことを信じることはできませんでした。

派遣事業は被爆体験講話から始まりました。被爆体験伝承者の池田さんはなぜ広島に原爆が落とされたのか、被爆した人はどうなってしまったのか、などたくさんのお話を分かりやすく教えてくださいました。その中で特に印象に残ったのは被爆をした御堂さんという家族の話です。それは被爆をした御堂義之さんの兄と母がだんだんと弱っていき亡くなるという話です。戦争が終わっても病気や差別で苦しんでいる人がたくさんいたことを聞いてとても悲しくなりました。

そして、次は原爆ドームと原爆の子の像を見て明和町の方々に心をこめて折っていただいた千羽鶴を奉納しました。その後広島平和記念資料館を見学しました。そこに置いてある 8 時 15 分で止まってしまった腕時計、ボロボロになった三輪車、焼け焦げた学生服、そして火傷をした人の写真、どれも原爆の恐ろしさを語っていて目をそむけたくなりました。

二日目、平和記念式典に参加しました。原爆ドーム付近では抗議デモをしている人もいて緊張感が漂い前日とは全く違う雰囲気でした。そして 8 時 15 分になり 1 分間の黙祷を捧げました。73 年前、ここでたくさんの方が亡くなったと思うととても悲しくなりました。

僕は今回の広島平和記念式典派遣事業で平和についてたくさん学ぶことができました。今回学んだことを無駄にせず、明和町の方々に平和について伝えたいと思います。

「広島を訪れて」

明和中学校 三年C組 女子

私は今回の派遣事業を通して、平和な日々を過ごせることのありがたさを感じました。毎日おなかいっぱいご飯を食べたり、お風呂でまったりしたり、好きなことをできる時間が私たちにはあたりまえのようにあります。こんな日常のことがどれだけ幸せなことかを、この二日間で体験することができました。

8月1日、出発式で各小学校から折り鶴を受け取り、みなさんの思いと共に8月5日、6日広島を訪れました。また、中井町長のお話の中の「現地でしか感じられないことを肌で感じてきてください。」という言葉が、私の中で派遣事業の一番の目的でした。広島では、被爆体験講話を聞いたり、原爆ドーム、平和記念資料館の見学などをしました。

その中でも一番印象に残っていることは、平和記念式典に参加したことです。実際に参加するのと、テレビで見るのとでは、全く違う雰囲気でした。広島市長の平和宣言や子ども代表の平和への誓いでは一つ一つの言葉に重みを感じました。その中の一つに、「私たちは無力ではないのです。」という言葉があり、これを聞いた時、平和な世の中が広がっていくために、何か私にでもできることをしてみようと思いました。原子爆弾が投下された8時15分の黙祷の時には、会場が静まりかえり、せみの声と鐘の音だけが響いていました。その会場の雰囲気は、一体感があって、平和への全員の願いが感じられました。平和記念式典には、日本中からはもちろん、世界各国からも多くの代表者が参加していました。私は、外国人の多さに少し驚いたけれど、みんなの平和を思う気持ちが一つだと思うと嬉しくなりました。

この貴重な体験は、私の人生の中で大きな財産になりました。たくさんの人に広島や長崎でおきた戦争について知ってもらえるよう、私も知識を増やして、身近な友達から伝えていきたいです。

「平和のために動く人々」

明和中学校 三年D組 男子

二日目の朝7時、私たちは広島の平和記念式典の会場の平和公園に向かいました。一日目の資料館の見学をしにここを訪れたときも慰霊碑に花をたむけましたが、そのときの状況とは違い、すれちがう人と肩があたってしまうほど人があふれていました。その中には外国人の方もちらほら見えて、世界の原爆への関心が高まってきていることが伝わってきました。

私たちが人ごみの中を進み、やっとの思いで会場内に用意されたパイプイスに座るとちょうどアナウンスがかかり式典が始まりました。そして子どもたちの楽団が奏でる重々しい演奏と共に来賓の入場が始まりました。私たちは一般席の前の方に座ることができ、慰霊碑や楽団のテントがよく見えました。そこから周りを見渡していると、私たちが来たときのガヤガヤとした声はしだいになくなり、おのおのが真剣に前を向いていました。献花はそうしている間に終わっていました。そして8月6日、8時15分。1分間の黙祷を捧げました。遠くから聞こえていたデモの声もピタリとやみ、鐘の音が鳴ります。

73年前のこの日、この時間、何千人もの人が苦しみ亡くなりました。実際にその様子を見ていない私が多くのことを語ることはできませんが、様々な人の話や写真を見るかぎり、爆風や放射線を浴びたこの町の姿はまさしく地獄だったでしょう。今後、そのようなことを二度と繰り返さないという意志を感じました。

会場を出るとき、私は元安橋の上で1枚の新聞紙を手渡されました。平和への宣言や、取り組みの書かれたものです。そこには「なにか自分にもできることはないか」そんな思いで必死に動いている人たちの言葉が書かれています。修学旅行で講演をいただいた戦場カメラマンの渡部さんも、伝承者の方もデモ活動の方々もそうでした。ですが、そんな中でも世界にはいまだに1万を超す核兵器があります。原爆が起こしたことを伝えることがいかに重要であるか、深く教えられました。

6. 総括



この明和中学校生徒を広島へ派遣する事業は、被爆地で戦争と平和を肌で感じる経験をしてもらうことを目的に、戦後 70 周年の節目の年であった平成 27 年に始まり、今年で 4 回目となりました。

広島で奉納したたくさんの折鶴は、明和中学校および町内の全小学校の生徒・児童に作成していただいたもので、広く平和啓発を行うことができました。出発式で折鶴を託された中学生たちは、平和記念式典への参列や被爆体験伝承者の方の講話など現地での平和学習を通して、学校の授業だけでは感じ取ることのできない戦争の悲惨さと平和の尊さを学び、平和追求の意識を高めることができました。

派遣後は、行政チャンネルや校内集会、地元テレビ局の番組等で現地での体験を発表することで、戦争のない平和な社会への実現へ向けて啓発活動を行いました。次世代を担う若者たちが、平和への思いを伝えていってくれることを願います。

終戦から 73 年が経過した今も、世界にはいまだ核兵器があり、いつあの日の悲劇が繰り返されるかわかりません。私たちは、二度と同じ悲劇を繰り返すことのないよう後世に戦争を語り継ぎ、平和を追求し続けるため、今後も平和活動に取り組んでまいります。

明和町長 中井幸充

— 非核平和の町宣言 —

非核平和の町を次のとおり宣言する。

世界の恒久平和は、人類共通の願いである。

しかしながら、核戦争の危機は依然として存在し、人類の生存に深刻な脅威を与えている。

われわれは、世界で唯一の核被爆国民として、また、永久に戦争の放棄を誓った国民として、人類が再び同じ過ちを繰り返さないよう核兵器の廃絶と世界平和の実現に努力しなければならない。

かけがえのない地球の平和と、愛と、命、そして美しい山河を守るため、わが明和町は、国是ともいうべき「持たず、つくらず、持ち込ませず」の非核三原則が平和を愛するすべての国の原則となることを希求し、ここに非核平和の町となることを宣言する。

平成3年9月17日 明和町

明和町における平和関連事業

平成 3 年 9 月	非核平和の町宣言
平成 24 年 9 月	平和首長会議加盟
平成 27 年 8 月	第 1 回広島平和記念式典派遣事業実施
平成 28 年 4 月	日本非核宣言自治体協議会加入
平成 28 年 8 月	第 2 回広島平和記念式典派遣事業実施
平成 29 年 8 月	第 3 回広島平和記念式典派遣事業実施
平成 30 年 8 月	第 4 回広島平和記念式典派遣事業実施

三重県多気郡明和町 総務課

広島平和記念式典派遣事業報告書 平成 30 年 9 月発行
〒515-0332 三重県多気郡明和町大字馬之上 945 番地